

ー 公開フォーラムと外部評価 ー

実施日時：11月13日(土) 10:00～13:00

実施場所：京都外国語大学 141教室

実施プログラムと内容

開会挨拶 久保 哲男副学長(京都外国語大学)

趣旨説明 中西 久美子准教授(京都外国語大学)

テーマ1「日本語教員養成におけるSNS・学習空間の重要性」…………… 22

話題提供：村上 正行准教授(京都外国語大学) 大学教育における SNS活用の意義
中俣 尚己嘱託研究員(京都外国語大学) 日本語教員養成のための学習環境デザインーSNSと実空間ー

テーマ2「SNSを活用した日本語教員養成」…………… 27

話題提供：石井 香織氏(釜山外国語大学) 日本語教育実習の活動内容ー釜山外国語大学の場合ー
石原 俊一氏(オーストラリア国立大学) SNSを活用した日本語教員養成ーオーストラリア国立大学における教壇実習ー実践報告
中俣 尚己嘱託研究員(京都外国語大学)

テーマ3「SNSを活用した海外の大学との交流」…………… 30

話題提供：上田 早苗氏(香港中文大学) SNSを活用した日本と香港の大学の交流授業
片岡 由紀夫氏(ハワイ大学) プロジェクト JAPAN (=JAPAN + HAWAII)
岸 磨貴子嘱託研究員(京都外国語大学) SNSを活用した海外の大学との交流ディスカッション

休憩

フロアを交えての全体討論

外部評価員からのコメント…………… 39

外部評価員による評価：上田 早苗氏(香港中文大学)
宇佐美 まゆみ氏(東京外国語大学大学院・大学日本語教員養成課程研究協議会理事)

総括コメント 中川 良雄教授(京都外国語大学)

大学教育における SNS活用の意義

京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 准教授

村上 正行

1

**大学教育における
SNS活用の意義**

京都外国語大学
マルチメディア教育研究センター
准教授 村上正行

masayuki@murakami-lab.org
Twitter ID: @munyon74

4

SNSの機能

- ▶ プロフィール機能
- ▶ ユーザ追跡機能
- ▶ 日記(ブログ)機能
- ▶ コミュニティ機能
- ▶ RSS機能
- ▶ メッセージ送受信機能
- ▶ アドレス帳機能
- ▶ レビュー機能
- ▶ カレンダー機能
- ▶ アルバム機能
- ▶ 足あと機能
- ▶ 動画共有
- ▶ ソーシャルゲーム・アプリ
- ▶ 位置共有

2

SNSとは？

- ▶ Social Networking Serviceの略
- ▶ 人と人とのコミュニケーションを支援するコミュニティサイト
- ▶ 知り合いの紹介によるメンバーによって構成されるので、安心感がある
- ▶ 「友人の友人」や、同じ趣味、出身校の人と知り合うことができる

5

SNS上でのコミュニケーション

大学生のSNSでの日記は、ブログと比べて実際の友人との交流に強く主体をおく(梅田ら(2007))

↓

日記などによってパーソナルな情報を開示しながら、授業などのコミュニティにおいて議論に参加

↓

現実世界とSNS上の双方における活発なコミュニケーションにより、多様な学習につなげることが可能

3

有名なSNS・ソーシャルメディア

- ▶ mixi <http://mixi.jp/>
 - 日本で最大のSNS
 - 2010年4月段階でユーザー数2000万人を突破
- ▶ Facebook www.facebook.com/
 - 世界で最大のSNSで、ユーザー数は5億人を超えている
 - 映画「ソーシャルネットワーク」も公開 <http://www.socialnetwork-movie.jp/>
- ▶ GREE <http://gree.jp/>
 - 近年はケータイゲームで有名
- ▶ Twitter <http://twitter.com/>
 - SNSではないが、ミニブログとして、最近流行中

6

大学におけるSNS

- ▶ 一般のSNSを教育に利用すると、これまでのSNS上に構築された友人関係が、変容してしまう
 - 学生が過去に友人向けに書いた日記を教員が読めてしまう、など

↓

- ▶ 参加者を大学関係者に限定することで、大学固有の問題についての議論や情報共有が可能
- ▶ 教員、職員、学生、卒業生と違う立場の人々によって、多面的な議論が可能

7

大学SNSの展開

- ▶ 大学においてもさまざまなSNSが展開
 - 徳島大学を中心とした、四国キャンパスSNS「さとあい」
 - ・ <http://satoai.jp/>
 - Fレックス(福井県の大学間連携プロジェクト)
 - ・ <http://f-leccs.jp/>
 - 佛教大学 平成19年度学生支援GP「縁(えにし)」コミュニティによる離脱者ゼロ計画
 - 大学の卒業生を対象としたSNS
 - ・ 東京外国語大学 e-アラムナイSNS
 - ・ http://www.tufs.ac.jp/blog/e_alumni/cat02/

8

授業などでの活用

- ▶ 望月ら(2010)による教育実習生の支援
 - 教育実習生が実習期間中の体験報告に基づいてコミュニケーションできるようにSNSを用いて場を提供し、学習コミュニティをデザイン
 - 教育実習のリフレクションを促進するとともに、教育実習生が実習期間中に身近なソーシャル・サポートを得られるようにすることで、教育実習不安を低減することを目的としており、実践を通して有効性を示している

9

SNS利用の問題点

- ▶ SNSを教育・学習に利用する際には、一般のSNSと違った問題点がある
- ▶ 学生がログインしない
- ▶ ログインしても新しい書き込みがなく、盛り上がらない
- ▶ 他の学生の日記や書き込みを探して見に行かない

10

インフォーマル情報・対面の重要性

- ▶ 大学におけるSNSを活用した教育・学習支援について特に下記の2点が重要
- ▶ インフォーマルな情報のコミュニケーションが重要
 - 授業に直接関係ないような書き込みがつながりを支援
 - ログインした際に新しい情報が必要
 - 教員・研究員のブログにおいても、日常的な内容は大事
- ▶ 対面を組み合わせることの重要性
 - 授業などと組み合わせによる
 - 学習のためのたまり場が必要
 - ラーニングコモンズのような学習環境が重要

日本語教員養成のための学習環境デザイン —SNSと実空間—

京都外国語大学 嘱託研究員
中俣 尚己

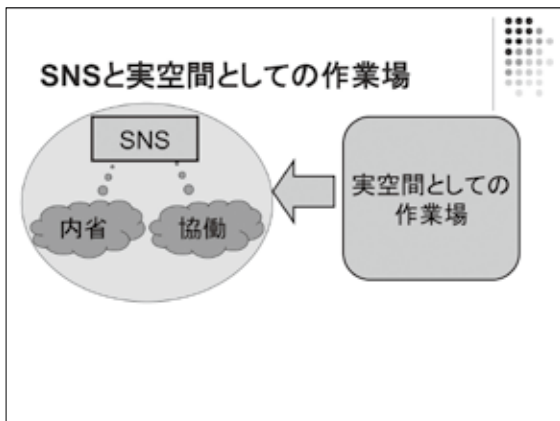
1



4



2



5

- ### 推進室設置の目的
1. (実習)準備作業の推進
→教材の設置
→授業の練習も行える
 2. SNS利用の推進
→PCを5台設置
 3. 学習コミュニティ形成の推進

3

- ### 日本語教員養成推進室
- 1 推進室設置の目的
 - 2 研究員の観察から:
実践共同体の発達
 - 3 インタビュー分析から:
リソースとしての人・対話

6

- ### 推進室では
- 専任の研究員が1人、
常駐するようにした。
 - 闊達なコミュニケーションを実現するため、飲食を許可した。

7

2.2 研究員の観察から:実践共同体の発達

研究員の観察によれば、
推進室の学びの構造には
段階的な発達が見られた。



11

具体例1 学年を越えた相互交流

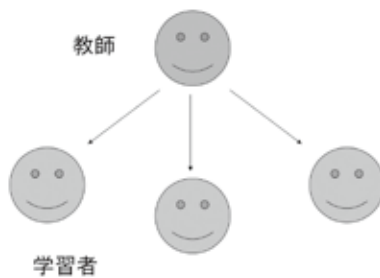
「しなければなりません」の導入を行う1年生が
同時期に同義語の「～しなきゃ」の導入を行う4年
生に相談

↓
4年生が1年生の模擬授業を見学



8

池田・館岡(2007:47)より 第1段階



12

具体例2 「観察」による効果

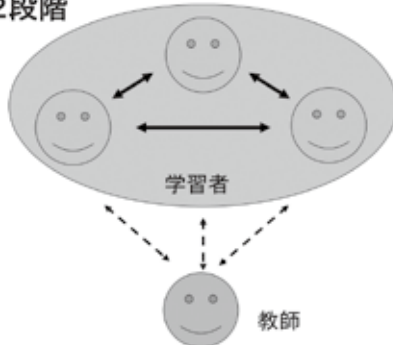
4年生と教員が、推進室にて、実習本番のビデオ
を見ながら振り返り

↓
その様子を見ていた1年生が、翌日、うまく良いと
ころを取り入れて模擬授業を行う



9

池田・館岡(2007:47)より 第2段階



13

推進室は「きっかけ」

推進室という実空間を共有することで、「きっかけ」
が生まれ、他の人の授業の準備の
様子を観察することができる。

いわば、実習という巨大なタスクの遂行過程を共
有するのである。その結果、双方向性の学びが発
生する。



10

第2段階の効果

研究員が席を外している間、先輩が後輩の面倒を
見る。

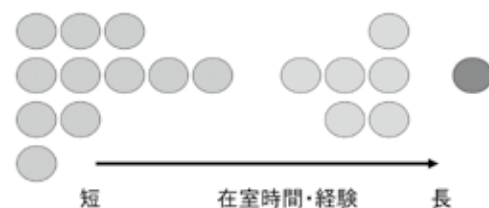
→SNSでは越えられなかった、
学年・学科の壁を越える



14

実践共同体として

2年生、他学科 4年生 研究員
周縁的参加者 十全的参加者



15

観察まとめ

推進室は教育実習という共通のタスクをもつ者が集まる実践共同体として機能していた。さまざまな学びの「きっかけ」を得ることができ、内省と協働により多彩な実践を行う出発点だったといえよう。
教材だけでなく、推進室にいる人間もまた重要なリソースとして機能していたのではないか。

19

3 まとめとして Webと実空間による学習環境デザイン

【学生A】春学期は一回も見えてないんですけど、秋学期になって結構年生の子と話するようになってから、名前がわかるので、その子がどんなことやってんのかなあって気になったり。(ここで話した人を見に行くのね?)はい。

【学生E】A先輩のダイアリは見させてもらいましたね、少し。「あー、なるほど」という感じのダイアリでしたね。

16

2.3 インタビュー分析から： リソースとしての人・対話

推進室の利点についての発言数

	人	物
学生A (4年生)	7	0
学生B (4年生)	7	2
学生C (4年生)	6	5
学生D (副専攻)	4	3
学生E (1年生)	1	4

20

実空間でのつながりを意識して、 SNSにコメントした学生も

で、次会った時にそういうのでコミュニケーションの場になると思う、きっかけとなる、話すきっかけになると思うんでコメントしたことが、「コメントありがとう」って言ってもらって「実はこうこう私も思ってたんだよって、でもね」って、そういうのすごく意見の交換のきっかけになると思うんですよね。だので、ほかの人のところにもコメントをさしていただきました。

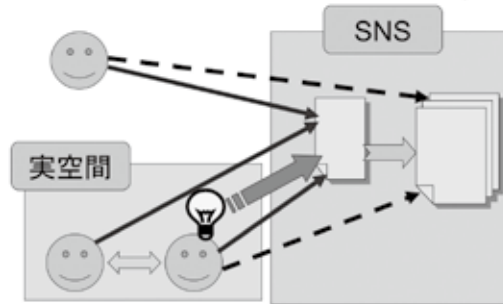
17

単に人がいるのではなく.....

「自由に話せるから」
「ここにいるのは、同じ目的を持った人達やから」
↓
「対話」の重要性

21

実空間で他者をリソースとして気づきを得、それをSNSのダイアリに書くことで内省を行う



18

推進室の機能

- 「物」だけでなく、人をリソースとし、悩みを共有する人間が「対話」を行う場

日本語教育実習の活動内容

—釜山外国語大学の場合—

釜山外国語大学
石井 香織

1

日本語教育実習の活動内容
—釜山外国語大学の場合—

釜山外国語大学
石井香織

4

問題点1

- 教育実習は数週間で終了してしまうが、何らかの形で引き続き交流を続けることができるか。

実習生の声
これで釜山外大の実習が終わってしまうのはなんだか悲しい。

韓国人学生の声
実習中は時間がなくて、あまり交流できなかった。これからもっと交流をしていきたい。

2

実習生の担当授業

- 1年生(初級)
 - 1学期「みんなの日本語Ⅰ」L1～L20
 - 2学期「みんなの日本語Ⅱ」L21～L37
- 2年生(中級)
 - 1学期「みんなの日本語Ⅱ」L38～L50
 - 2学期 1学期の重要文型復習
「日本語集中トレーニング」
- 3年生(高級)
 - 1学期「日本語生中継 初中級編1」
 - 2学期 自作教材

5

解決方法

- 香港中文大学、ハワイ大学と同様に今月から試験的にSkypeでの交流を開始。

↓

- 継続的な日本語の指導
- 学生の日本語学習の手助け
- 韓国人学生の日本語能力の変化を体感

3

実習担当時間数

- 「初級日本語会話」
 - 1駒(50分)×4時間/週
- 「中級日本語会話」、「高級日本語会話」
 - 1駒(50分)×3時間/週

※担当する講師(ネイティブ講師)によって、実習時間数や見学数などは若干異なる。

6

問題点2

- 実習生による書き込みが少なく、実習中の実習生の様子を把握しにくい。

原因

↓

- ①実習中は準備や見学などで忙しく、十分に書き込む時間がない
- ②インターネットの環境が実習生によって異なる
- ③SNSへの理解度が低い

7

問題点3

- 実施形態が、協定校という形ではないので支援不足による問題がある。

↓
問題点

- ①学生への広報、募集
- ②事前、事後指導
- ③継続的に実習が続けられるかどうか
- ④引率の先生への支援

8



SNSを活用した日本語教員養成

オーストラリア国立大学における教壇実習 実践報告

オーストラリア国立大学
石原 俊一

1

SNSを活用した日本語教員養成

オーストラリア国立大学における教壇実習
実践報告

石原俊一

The Australian National University
College of Asia and the Pacific
School of Culture, History and Language
Japanese Language Program

4

授業形態

- ・講義とチュートリアル*
- ・(Spoken Japanese 2を例として)
- ・履修学生数：約100名
- ・講義：週2回(各1時間)
- ・チュートリアル：週2回(各1時間)
- ・LL：週1回(1時間)
- ・*各15程度の小クラスで主に講義で学習した事の練習を中心として行う。約100名程度の学生数の場合6~7クラス設けられる。
- ・*同じ内容の授業を数回繰り返し行える。

2

研修時期・期間

- ・時期：8月~9月頃(ANUでの2学期)
- ・期間：3~4週間程度(1週間は英語研修、1週間は授業見学)
- ・実際の教壇実習は1~2週間
- ・実習生はホームステイ

5

問題点・課題

- ・実習生の減少
- ・渡豪前から担当教科に何らかの形で関われないか? Learning Management System(LMS)やVideo Conferenceの有効利用?
- ・教育実習は数週間で終了してしまうが、何らかの形で引き続き担当した教科に関わっていけないか?LMSの有効利用?

3

受け入れ教科

- ・実際に開講されている教科で実習生を受け入れる。
- ・4人程度の実習生が1組となり下記の教科で実習を行う。
- ・Spoken Japanese 2(学習時間：最低でも100時間)
- ・Written Japanese B(学習時間：最低でも140時間)
- ・Spoken Japanese 4(学習時間：最低でも300時間)
- ・Written Japanese D(学習時間：最低でも360時間)
- ・教科担当教員1名+他数名の教員が1チームとして教科を担当

6

展望

- ・長期実習
- ・海外教壇実習提供先としてのニーズに合った教壇実習の場の提供

SNSを活用した 日本と香港の大学の交流授業

香港中文大学日本研究学科 Senior Instructor

上田 早苗

1

**SNSを活用した
日本と香港の大学の
交流授業**

香港中文大学日本研究学科
Senior Instructor
上田早苗

4

参加者数

	08-09年度		09-10年度		10-11年度	
	母語	人数	母語	人数	母語	人数
実習生 (京都)	日本語	9名	日本語	15名	日本語	6名
	中国語	2名	中国語	2名		
			韓国語	2名		
学習者 (香港)	中国語	10名	中国語	11名	中国語	11名
計		21名		30名		17名

2

実践の概要

期間：2008年9月～2009年1月
2009年9月～2010年1月
2010年9月～2011年1月（現在進行中）

参加者：京都外国語大学の实習生
「日本語分析演習」（中西久実子先生ご担当）
履修者 香港中文大学の学習者
「上級日本語作文」（上田担当）履修者

SNS：「日本語分析演習」（授業のコミュニティ）

5

スケジュール

	08-09	09-10	10-11
自己紹介文up	9月25日	9月23日	9月21日
小論文テーマup	10月9日	10月7日	10月5日
小論文キーワードup	10月16日		
動機エッセイドラフトup	10月23日		
動機エッセイup	10月30日	10月21日	10月19日
ドラフト1up	11月6日	11月4日	11月11日
ドラフト2up	11月13日	11月18日	11月25日
最終版小論文up	11月27日	12月2日	
相互評価シート	1月28日	12月18日	1月13日

3

実践の目的

実習生：日本語教育能力（プロフィেশンシー）の修得

学習者：日本語の正しい語彙・文法、説得力のある文章構成を学ぶ

6

小論文のテーマ(08-09)

- ◎ 日本のアニメについて
- ◎ 日本から考える中国アニメ産業の発展の可能性
- ◎ ロリータファッション文化
- ◎ 日本の若者とコンビニエンスストア
- ◎ 言語の性格
- ◎ 日本の化粧文化について
- ◎ 日本のテレビ番組と長寿
- ◎ 日本の「可愛い」ファッション
- ◎ 職場の飲み会について
- ◎ 関東と関西における食文化の差異についての一考察

小論文のテーマ(09-10)

- 「日本」の読み方から背後の原因を探る
- 日本の声優コンサートとその魅力
- 女性はなぜBLに夢中になるか
- 香港の若者から見た日本人をめぐる調査
- 日本人の食文化の変化、問題点とその対策
- 香港と日本の若者の携帯電話の使用状況
- 若者にとっての「おしゃれ」の意味
- 現代における敬語の乱れと変化
- 食事代は男が払う？女が払う？—日本人の支払いのマナー—
- 日本の公衆浴場についての—考察—銭湯の役割と社会の変化—
- 日本男性の化粧における男女のジェンダー関係についての—考察—

動機エッセイに対するコメント② (実習生Y→学習者S)

Sさんへ

遅くなってごめんなさい。
動機エッセイ読みました。
文章も読みやすいし、内容もよくまとまっていますね！
上手なのでびっくりしました～
日本語を直した方がいいところはMちゃんが書いてくれたので、私は内容について少し書きます

留学経験者や日本の研究をしている教授と、留学経験のない一般の若者が持っている日本のイメージの比較はとてもいいアイデアですね！
ですが、結果の比較だけだと内容が少ないと思うので、「メディアがどのような影響を与えているのか」というところを主な内容にするのはどうでしょうか？

小論文のテーマ(10-11 仮)

- コンビニの経営者とコンビニの普及の関係
- 寝不足が生活に与える影響
- ケータイが私たちの生活に与える影響
- 人生の意味(⇒変更を検討中)
- 日本人と難しい漢字
- 香港映画が未来を模索する道
- 日本におけるお笑いの構造
- 若者のフリーターの増加について
- 香港、日本と韓国の女性の比較
- 日本のホームステイホストファミリーとしてのボランティア文化
- 小悪魔スタイルとキャバクラ嬢の現象～ファッションと日本社会の関係～

コメントに対する回答 (学習者S→実習生M,Y)

この前MちゃんとYちゃんのご意見ありがとうございます！
Mちゃんはまるで先生のようなですね
文法の間違いとか直してくれてありがとうございます！
勉強になりました！！
そして、Yちゃんは内容についていろいろ教えてくれてありがとうございます～！
おかげで、内容はちょっと変更があります。
言うとおりに、「メディアの影響」はちょっとやりにくいですが、この部分はもうやめました！

では、添付ファイルはレポートのドラフト1です。
よかったらご覧ください。

自信作ではないのですが、よろしく
お願いします！！
皆さんのご意見は本当に大切です！

実習生と学習者のやりとり

SNSでのやりとり



ドラフト1に対するコメント (実習生M→学習者S)

Sさんへ

先生みたいですか?びっくりですWW

日本人=おしゃれと思われてるんですね。そういえば中国の若い女の子も日本人はおしゃれだと言っていました。私は「そうなのかなあ?」
「よくわからないなあ」というのが正直な意見ですけど。

若い子は日本のファッションやアニメに、大人は日本料理に興味があるのかなあと予想しているのですが、年齢差によって、興味の違いはあるんですかね?

動機エッセイに対するコメント① (実習生Y→学習者S)

Sさんへ

コメントが遅くなってしまごめんなさい。
動機エッセイを読ませていただきました。
日中間の留学経験者であるお半響りと、戦争経験のない若者の日本に対するイメージの違いをテーマとしてるんですね。良かったです。中学生、大学生、社会人と分けるよりも、「10代、20代、70代以上」みたいに、年齢で分けてインタビューしてみてください

動機エッセイなんですけど、私が一の後に書いた日本語のほうが、日本語らしいですよ。
よかったら読んでみてくださいね

直接日本人と接する機会がありませんが
—あまりないが

(略)

ドラフト2に対するコメント (実習生M→学習者S)

Sさんへ

のんびりとしていたら、いつの間にか火曜日になってしまっていました。
コメントが遅くなってしまごめんなさい。
(中略)

★その50問の叙述は、筆者が友達と家族に簡単なインタビューを行い、「日本人に対する印象」を聞き、50個最もよく答えてくれたものである。

ごめんなさい！！
「50個最もよく答えてくれたものである」という意味ですか？

15

コメントに対する回答
(学習者S→実習生M)

わわわ～これはわかりにくいですか？ごめんなさい～
つまり、私は友達や、家族など「日本人に対し、どんなイメージがありますか？」って聞いて、向こうはいくつか答えてくれるんじゃないんですか？
それで、よく答えてくれる50問を選んで、アンケートを作ったです。
ということです。
説明はちょっと苦手ですか、また分からなかったら、ぜひ聞いてください。

19

(学習者M→実習生, 2009. 11.17)

皆さん、お久しぶりです。きのう大事な口頭発表があるので最近すごく忙しいです。すみません～でも、修羅場から帰りました。ただいま！

Nさん、
「東野圭吾」という名前を聞いたことがあります！去年のこのごろ、香港は探偵ガリレオシリーズのテレビドラマは香港で放送していましたから。怖い小説はちょっと苦手ですが、東野圭吾さんの作品が読みたいです。ちなみに、わたしはシドニー・シェルダンの大ファンです！彼の作品をほとんど読みました！



16

雑談スレッドの出現

20

相互評価シートの結果
実習生の回答

17

- 09-10年度の交流中に実習生から自発的に
 - 実習生Y→学習者 (2009.11.9)
- 「こんにちは
みなさんともっと②お話がしたいなあ～と思って新しいスレッドをたてました。なんでも好きなことを話す場にしませんか？ぜひぜひ楽しいことなどを共有しましょう！！」



21

質問19 京外大生との交流は日本語学習者としてメリットがありましたか。

	強く そう思う	少し そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	無回答
08-09	2	5	1	0	0
09-10	4	6	0	0	1

18

(実習生Y→学習者,2009.11.9)

こんにちは☆
この間(?) ちょっと前、『不能説的・秘密』という映画を見ました!!とてもきれいな音楽とピアノの腕前に感動しました。ストーリーも切なくて...でも目が離せなくて...良い映画に出会ったな"U"とうれしい気持ちになりました。

(学習者E→実習生, 2009.11.10)

不能説的・秘密見ましたか?いい映画たったですね～
この前、映画館でマイケル・ジャクソン THIS IS IT見ました。
とても感動した。
最近何が面白いことがありますか?

22

質問20
どんな利点がありましたか。

	文法や語彙の間違いを指摘してもらえる	他の人の意見を聞くことで内容の質を上げることができる	担当教師以外の意見を聞くことができる	日本人と交流できる	その他
08-09	7	7	5	6	0
09-10	11	8	10	11	0

質問5

京外大生に言われて嬉しかった・よかったことがありますか。それはどんなことですか。

(08-09年度)

- 客観的な意見でした。テーマについて意見をもらいました。
- 自分の国の例を挙げるという提案。
- トピックが面白いと言ってくれた。

相互評価シートの結果 学習者の回答

(09-10年度)

- 文章に（京外大生が）気になったところとそれについての詳しい説明。文章の方向についてのコメント
- 文法についての意見。レポートの内容に関する情報
- 文法の違いなど丁寧に説明してくれて、そして私からの質問も詳しく答えてくれました。
- 論文の流れはちゃんとしていること。
- ポジティブの評価（よく書けていますなど）を受けるとき。
- 「わかりやすく書けている」など。
- 意見はとて素晴らしいです。
- よくがんばった。...感謝します。
- 「テーマ」について興味を持っています。
- 私の書いたものを読んで**についての認識が深まったそうです。
- ドラフトを読んだら、香港の**がもっとわかるようになりました。香港のことに興味を持つようになりました。

08-09年度の調査結果

18. ペアの相手（香港中文大生）との交流は「日本語教育」の面で利点がありましたか。

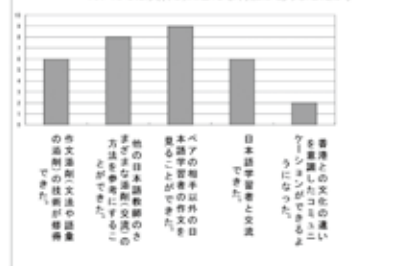


質問8 京外大生とのコミュニケーションはうまくいきましたか。

	強く そう思う	少し そう思う	あまりそ う 思わない	全くそ う 思わない	無回答
08-09	3	4	1	0	1
09-10	3	7	0	0	1

08-09年度の調査結果

19. 18では具体的にどんな利点がありましたか。



質問9 SNSは他の人とのコミュニケーションに有効だと思う。

	強く そう思う	少し そう思う	あまりそ う 思わない	全くそ う 思わない	無回答
08-09	3	4	2	0	0
09-10	3	8	0	0	0

学習者は交流はおおむねうまくいったと肯定的に考えている。

質問12 中文大生とのコミュニケーションは、うまく進みましたか。

	強く そう思う	少し そう思う	あまりそ う 思わない	全くそ う 思わない	無回答
08-09	1	2	6	0	0
09-10	6	4	4	1	0

実習生は自分がうまく交流できなかったことに否定的な評価
 ・一方的なアドバイスになってしまったのが反省点です
 ・一回のアドバイス量がとても多くなってしまって、少し一方的になってしまったのかなと反省しています

31

まとめ

- 実習生、学習者ともに当初の目的について効果があったと一定の評価をしている。
- 実習生：日本語教育能力（プロフィシェンシー）を修得する
 - ・ 学習者との異文化コミュニケーションの問題について「気づき」が起こる。
 - ・ SNSで学習者と交流することによって、実習生という役割から自律する段階へと成長する。
- 学習者：日本語の正しい語彙・文法、説得力のある文章構成を学ぶ
 - ・ 「読んでくれる」相手、「書いたものに興味を持ってくれる」相手がいることで書く動機が高まる。

32

今後の課題

- さらなる交流の活性化
 - ⇒09-10年度はSkypeを取り入れて実践中
- 異なるグループ間での交流の活性化
- 異文化コミュニケーション上の指導

プロジェクト JAPAI (=JAPAN + HAWAII)

ハワイ大学 カピオラニコミュニティカレッジ

片岡 由紀夫

I. プロジェクトの背景と経緯

ハワイは日系人や日本人観光客が多いことで他の地域から見ると比較的日本語話者と接する機会が多いように思われるが、実際には、観光客相手に仕事をしている学生ぐらしか、普段日本語の言語活動に触れる機会はない。また、そういう場でも限られた言語活動、最小限の言語活動で事足りてしまうので、なかなか情報や意見の交換などの言語活動に発展する可能性は少ない。

また日本人留学生も多いが、その多くは英語を使う事に焦点を置いているので、なかなか純粋な日本語のやり取りという訳にはいかない。

一方日本語の教室で行われている言語活動も教師が工夫して様々なシミュレーションを試みるものの、やはり人工的な言語環境の枠を出ない。

本プロジェクトは言語活動を少しでも実践的、現実的な環境に近づけたいというKCCの日本語教室にとってまたとない機会になった。

パイロットプロジェクト

本プロジェクトに先立ち五月からのおよそ二ヶ月間、KCCの日本語202を修了した男子学生二名と京都外大女子学生二名でパイロットプロジェクトを行った。

本プロジェクト (9月中旬～11月)

KCC側の参加者は日本語102 (初級日本語 II) の履修者の23名で始まり、途中一名減り現在22名。全部で11のグループに分けられ、ひとグループにつき一人から二人の京都外大の参加者が割り当てられた。

II. プロジェクトの方法、実践

プロジェクトJAPAIは、スカイプ交流と京都外語大学で使われているSNSからなる。

スカイプ 交流

学生は担当のチューターとメールやSNSで交流の時間を決める。その際、日本とハワイの19時間の時差を十分考慮する事を徹底させるためにタイムテーブルなどを配布することにした。しかし、時間を間違えないようにするという事よりも、日本とハワイではほぼ昼夜が逆になるので、19時間の時差そのものが双方が参加できる時間を探すことを困難にしているようだ。

セッションのトピックとしては主にKCCで使われている教科書(Nakama Vol. 1b)に沿って設定した。

趣味	好き嫌い、嗜好、比較
買い物	習慣、行動、店の種類(デパート、ブティック、スーパー、モール)
招待	デート、外食、パーティ、ピクニック
家族	家族構成、職業、年齢、性格、容姿の描写
天候	日本各地の天気、天気予報、地理
休日・祝祭日	思い出、過去の経験

スカイプの交流中はチューターも学生もできるだけトピックの範疇に留まるようにするが、チューターの判断によって他のトピックへの移行、また他の活動なども取り入れても良いとした。実際にチューター側は学生の能力に応じて教科書のドリルをすることか、学生側から提供されたトピックを使うなどの臨機応変な対処をしている。

パイロットプロジェクトの段階で問題になっていた英語の使用に関しては、学生側も授業でカバーされた部分は日本語の準備をして臨む、単語の意味を日本語で聞く、「言い換え」を依頼する表現を学ぶ、またチューター側も学生が分からないと判断した時には「言い換え」を試みるなどして、交流中は極力日本語で通す努力をする。

さらにスカイプの「チャット」機能を利用し、学生が分からなかったり、聞き取れなかった時には日本語の単語や表現を書くようにすることとした。

間違いの訂正について

「どこまで、間違いを訂正したら良いか」という問題もパイロットプロジェクトの段階であがった問題で、まず、KCCの学生を「学習者」、そして京都外大の学生を「チューター」とそれぞれの役割を明確にする事によって、学習者であるKCCの学生が間違いの訂正をポジティブにとらえるように促す。次に、チューターが間違いを見つけたら、正しい文を繰り返して学習者が何を言おうとしたか確認し、学習者がそれによって自分の間違いを発見する機会を与える。さらに、チューターは学習者の性格を理解し、学習者ごとに違った色々な訂正の方法、仕方を模索する。最後に、チューターは間違い訂正の経験を書き込みほかのチューターと分かち合うようにした。

SNS

毎回、スカイプ交流の後に、チューターも学生も以下の点に関してリフレクションを書く。

- (1)セッションの簡単な要約
- (2)うまくいったこと:新発見、新たに学んだこと
- (3)うまくいかなかったこと:難しかったこと
- (4)文化的な発見:考え方、慣習、誤解

KCCの学生は上記の(1)以外は英語で書き、セッションの簡単な要約に関して、チューターはコメントを書くようにする。

一方、京都外大のチューターは、上記を日本語で記し、京都外大及びKCCの担当教員、TAがチューターのリフレクションに対して適時コメントを書き入れる。思った事、感じた事を率直に書くという観点から、KCCの学生はこのセッションにはアクセスできないようになっている。

III. 成果と効果

(1)異文化間の違いについての気づき

KCCの学生は、現在のところ、授業で学習した単語や文法を使って「相手に伝える」「相手の話を聞く」ということに精一杯であるため、異文化間の違いに気付くには余裕がない。

日本語学習での初期の段階では、どうしても言語使用、つまり、何を話すかよりも、どう話すかに焦点があり、コミュニケーションができるようになり、話す内容に焦点が当てられるようになって初めて異文化の違いに気付く余裕が出てくるのではないだろうか。

(2)学習環境のデザイン、授業設計について

学習環境の違いにより、学生のモチベーションやパフォーマンスも異なってくる。従って、スカイプ交流を授業設計(授業外)に取り入れることにより、学習者のモチベーションの向上や、多面的な能力の養成に貢献できるものと思われる。

普段、教室で行われている活動は文法や語彙の理解力が中心となり、それをドリルやタスクなどを通して定着させる方向に進む。コンテキストもなかなか人工的な範囲を超えられない。従って、コミュニケーションがたとえ失敗しても、それによって、学習者に何らかの不利益が生じる事は少ない。また学習者の能力を評価する場合もほとんどが「読み、書き」が中心となる。

こういった環境下では「優等生」といわれている学習者でも、スカイプのような実際の会話で求められる「即興性(Improvisation)」の能力を持っているとは必ずしも限らない。言い換えれば、教室では「優等生」のはずの学習者が、実際に話す場で自分の得意とする「能力」を十分発揮できない可能性がある。

逆に、一面的な評価のもとではなかなか自己の能力を発揮できないという学習者もスカイプ交流では、学生個人を評価する教師も友達(Peer)もいないため、自分らしさを発揮できる可能性がある。スカイプ交流では、自分のパフォーマンスは単に「授業の内容を理解している、単語や文法が使える」というところで評価されるのではなく、相手に伝えたいことが伝わったか、相手の言いたいことを理解できたか、というところで評価され、教室での日本語活用とは、異なる観点から充実感や達成感を得ることができる。その結果、日本語学習へのモチベーションをあげうる事となる。

実際に単純にスカイプ交流の回数を比較してみると後者の方が回数が多く、積極的な場合が多みられる。

つまり、日本語を使う環境の違いによって、学習者はそれぞれの得意とする「能力」を発揮することができると言える。これが、スカイプ交流の実践をカリキュラムに取り入れることの意義であると言える。このように従来の教室授業とスカイプ交流をつなげることにより、日本語活用に厚みや幅を持たせ、学習者の「能力」を多面的なアプローチで支援し、評価をしていくことが可能となる。

(3)展望とその他

「好きな食べ物」と「健康にいい食べ物」とは必ずしも一致しない。人は好きな物だけを食べていたのでは必ずしも健康になれるとは限らない。嫌いなものでも健康のためには食べなければならない。今のKCCの学生の反応はこれと似たところがある。また、食わず嫌いという面もあるかもしれない。

しかし、スカイプ交流が普段教室では得られない貴重な言語活動の場を提供してくれているという点ではほとんど一致している。

また、KCCの学生の日本語の評価は、現在のところ筆記試験が中心であるが、将来的には、多角的な面から学習者の日本語能力を評価することができるように、例えばスカイプで交流したものを録画し、それを評価の対象にする事も可能であり、是非取り入れていきたいと考えている。

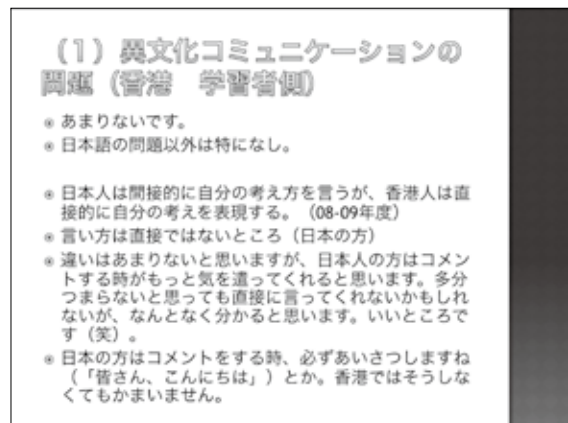
SNSを活用した海外の大学との交流 ディスカッション

京都外国語大学 嘱託研究員
指定討論者 岸 磨貴子

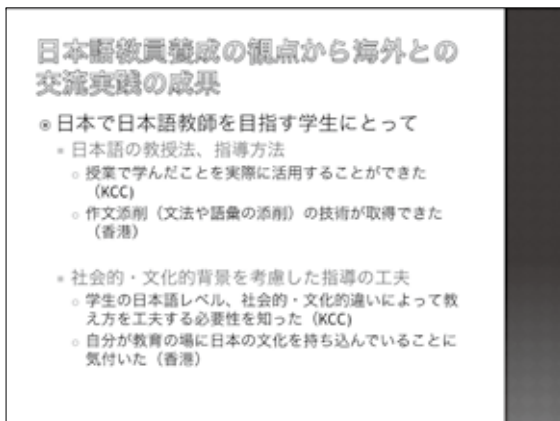
1



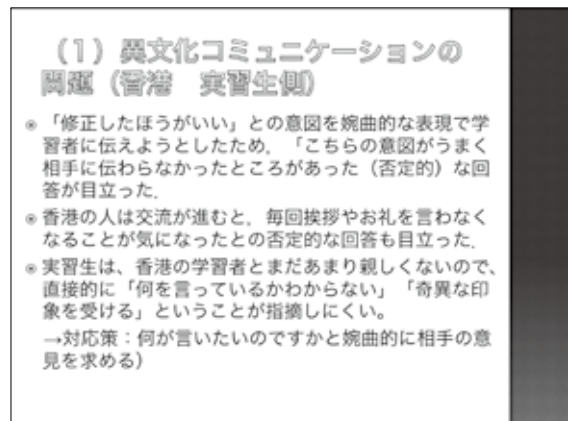
4



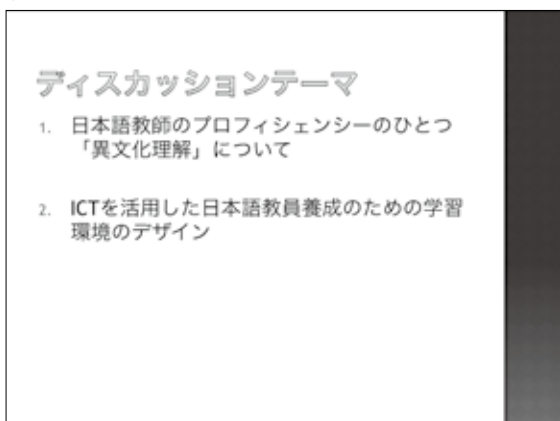
2



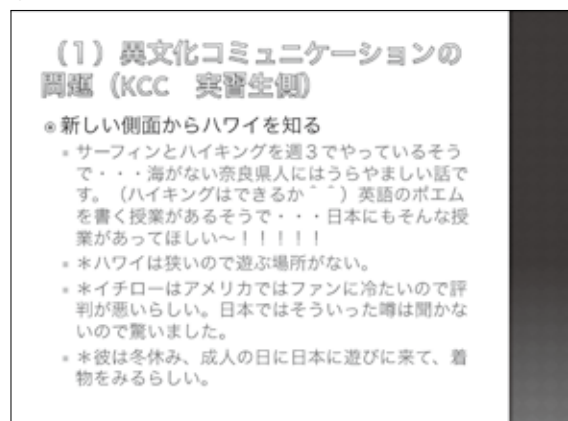
5



3



6



7

(1) 異文化コミュニケーションの問題 (KCC 学習者側)

- 授業で学習した単語や文法を使うことに必死になっているため、異文化を感じるどころまではない。



日本語学習での初期の段階では、どうしても言語使用に焦点があてられてしまう。話す内容に焦点が当てられるようになってはじめて異文化の違いに気づく余裕がでるのではないだろうか。

8

(2) 09-10年の学習環境デザインの変更点

- 2008年度実践後の反省を踏まえ、改善
 - 交流単位をペア(08-09年度)からグループ(09-10年度)に変えた。
 - PRの対象を小論文の序論だけ(08-09年度)でなく、すべての部分(09-10年度)にした。
 - ファシリテーターとしての教師の役割を見直した。
 - SNSの機能を改良した。
- PRを通して「小論文を完成する」という点では基本的に同じ

9

(2) 学習環境デザインの課題と展望(KCC)

- 学習環境の違いにより、学生のモチベーションやパフォーマンスが異なる。
- スカイク交流を授業設計(授業外)に取り入れることにより、学習者のモチベーションの向上や多面的な能力の養成に貢献できる。



- 筆記試験に加えて、多角的な面から学習者の日本語の能力を評価するため、スカイクで交流したものを録画し、評価の対象とする。

10

総合まとめ

- 開かれた教室での実践
- 情報通信技術の活用による「知識」の活用
- 真正 (Authentic)な学習環境における学び



- そのためには、
- 海外との交流学習とカリキュラムの関係を明確にすること
 - カリキュラム、実践、ツール、サポート体制を含めた総合的なデザインが必要

上田 早苗先生 (香港中文大学)

上田早苗先生は、本取組のSNSを活用した「作文添削の交流授業」を2008年度・2009年度・2010年度の3年にわたって継続し、香港中文大学の日本語学習者と京都外国語大学の日本語教育実習生との交流を実践しておられる。

以下では、SNSの外部評価者という視点から上田先生が公開フォーラムで講評された内容を、「評価できる点」「改善すべき点」「総括」の順でまとめる。

1. 評価できる点

京都外国語大学の教育GPで実践されているSNSのWEBダイアリーは、次に示す点において高く評価できる。

まず、日本語学習者の視点からみて、京都外国語大学の教育GPの取組は非常に有効である。日本語母語話者と接した経験がほとんどない海外の日本語学習者にとって、日本語母語話者と接する機会をSNSというものが、可能性を示唆してくれるのはありがたいことである。

さらに、日本語教員養成の支援という意味でも、本取組は非常に学ぶところが大きい。香港では、民間の日本語学校などで教員養成を目的としたレクチャー中心の短期の教員養成講座は行われているが、日本語教師養成そのものがまだあまり行われていない。香港の日本語教師は、多くの場合、教壇での悩みや問題などを共有できる場がなく、日々自分一人で悩み続けなければならないという問題を抱えている。京都外国語大学SNSのWEBダイアリーを閲覧するだけでも、このような問題の解決の糸口を得ることができ、香港での日本語教育・日本語教員養成に資するところは大きい。

2. 改善すべき点

京都外国語大学の教育GPの取組は、以下の3点において改善を試みれば、今後さらに発展する可能性を有している。

第1は、海外での日本語学習者を継続的に参加させる支援についてである。京都外国語大学の学生は、卒業後も国内外のどこかで実習をすれば時折書き込みをするなど、その参加は継続的に維持できている。これに対して、海外の学習者は、現状では授業が終わった後はSNSの書き込みをしなくなる。今後は授業が終わったあとでも継続的にコミュニティの一員として参加できるように努力すべきである。

第2は、すべてのコミュニティをオープンにすべきということである。現状では、一部のコミュニティ(香港との作文指導の交流授業など)がクローズドになっており、当該授業の登録者以外はやりとりを閲覧することができない。たしかに日本語学習者は自分の日本語に自信がないので、クローズドにすることで安心感が得られるというメリットはある。しかし、今後はコミュニティをオープンにすることによって得られるメリットのほうを重視し、情報をオープンにして共有化していくことが望ましい。

第3は、日本語学習者の参加をどう促進するかについてである。京都外国語大学の教育GPの取組では、日本語母語話者(日本語教員をめざす日本の大学生)を、SNSに積極的に参加させることに成功したとの報告があった。しかしながら、日本語学習者に関してはその参加がまだ部分的でしかない。今後は学習者の参加をどう促進させ、そのモチベーションをどう上げるかが課題になる。

3. 総括

上田先生のお話では、日本語教員養成という視点だけでなく、日本語学習者の視点からも、本取組が高く評価されるものであることが示された。

ある学会で上田先生が交流授業について研究発表されたとき、中国の方から「うちの大学も何とか関わらせてもらえないでしょうか」という申し出があったとのことである。このことから、京都外国語大学の取組に対する関心度が非常に高いことがうかがえたとされた。

香港では700万人の人口のうち、日本語能力試験の受験者が2009年にはのべ2万人に迫る勢いである。しかしながら、日本語教師養成そのものはまだあまり行われておらず、京都外国語大学の日本語教員養成に関するSNSの取組の知名度も低いとのこと指摘もあった。今後は京都外国語大学SNSのWEBダイアリーを香港の大学でも共有することが大切であり、それを香港でならどう実践できるかを考えていきたいとのことであった。具体的には、誰が香港で立ち上げ、誰が運営を維持していくのか、資金的な問題はどうか解決するかなどが問題になってくると思われるが、まずは共有することから始めたいとの積極的な提案がなされた。

外部評価員による評価②

宇佐美 まゆみ先生（東京外国語大学大学院）

宇佐美まゆみ先生は、東京外国語大学大学院で日本語教員養成に携わるとともに、大学日本語教員養成課程研究協議会の代表理事も務めておられる。それらのご経験も踏まえながら、外部評価員として、本取組について講評をいただいた。全体として、本取組みは、非常に先駆的で有意義なものであるとの評価をいただいた。

以下に、宇佐美先生が公開フォーラムで講評された内容を、「評価できる点」「改善すべき点」「総括」の順にまとめる。

1. 評価できる点

<海外の協定校と協力している点>

京都外国語大学の教育GPで実践されているSNSのWEBダイアリーを活用した教育は、非常に先駆的な試みであると評価できる。特に、海外の協定校、協力校の先生方との協力体制が確立し、スムーズに実践されているという点に、刺激を受けた。実体験に基づく報告であるため、大変説得力があり、今後いろいろな機関でさまざまな形で取り入れていくべき内容が含まれている。

<人的リソースを活用して実践している点>

SNSの実践で最も重要になってくるのは人的リソース、人間である。SNSはインターネット上でのサービスだが、それを有効に生かすのは、あくまで人間である。その人間同士の協働関係が、本取組では、非常にスムーズに進んでいるということが、試みの報告を通じて伝わってきた。SNSの技術、テクノロジーの開発も、人間が行うのであり、それを使いこなすのは人間であるということを変えて自覚する必要がある。一方、教育のほうも、教育者が行うものにはあるが、教育者が一人で全部を行うのではなく、SNSなどの技術をフルに活用する必要があることも自覚する必要がある。忘れてはならないのは、技術を開発し、まとめ、協力しながら、実際に動かしていくのは、結局は、人であるということである。それが本取組では、現実にもうまく機能していると感じた。

<自然なやり取りを提供している点>

本取組は、実習生同士、実習生と教員、あるいは、学習者と実習生など多様な人間の自然なやり取りを誘発するということが、海外など遠隔地ででもできるような環境を作り出している点が優れている。

<自律学習を誘発している点>

この試みの最も重要なところは、異文化に対する気づきやその元になるモチベーションを育てることの重要性を自覚し、核としているということである。モチベーションへのきっかけというものは、教室外の経験でも、ネイティブの人との交流等何でもいいのだが、だれかと話してみたいというモチベーションが生まれることが、学習したいというモチベーションとなり、実際の学習に繋がっていくということである。学習者は教師から教えられたことを覚えるだけでなく、自分から学びたいものを選び、学んでいくという能力を持っているのである。それを最大限引き出すようにするのが教師の仕事である。このことは最近の言語教育学の研究においても、いわゆる自律学習として着目されているが、SNSを活用した京都外国語大学の試みには、自律学習に繋がっている活動がかなり見られる。

海外の機関の場合、教室外で自律学習を体験する機会が少ない。授業で、ビデオや映像などの視聴を通して補ってはいるが、実際の会話のようなやり取りを、身近なネイティブの学生とできるというような機会は、海外の学習者にとって、大変貴重な経験になる。このような機会を遠隔にいる学生にも与えているという意味でも、本取組には大変有意義がある。

<異文化に対する気づきを誘発するだけでなく、教師にも学びを提供している点>

京都外国語大学の試みは、学習者が異文化に関することに気づくというメリットがあるが、それだけでなく、教師のほうにもメリットがある。

SNSの参加者は、交流している相手との文化の違いを感じることもある。たとえば、日本では遠まわしにお願いするほうが丁寧だとされる場合でも、香港では遠まわしに表現せずに直接的に言ったほうが誠実でいいと捉えられる

こともある。そのような違いについて気づいた際に、「郷に入っては郷に従え」ということを盾に、相手に合わせようとするのではなく、お互いが歩み寄るような形で、お互いがその違いから何かを学び合う必要がある。そのように考えると、教師の側の指導のしかたも、日本では当たり前と思っているようなことが、他の文化では当たり前ではないということも多々ありうる。これは、授業の行い方や進行の仕方、説明の仕方、学生との関係の持ち方などにおいてもあるわけであるから、そう考えると、教員のほうにも学ぶべきところが大きい。学習者だけでなく、教師にも学びがあるという点でも本取組は大変有意義な活動になっていると評価できる。

2. 改善すべき点

<自律学習のネットワーク作り>

自律学習が起こっているという報告があったが、将来的には授業でやった体験をきっかけにして、授業外でも独自に学習者たちが交流していけるような自律学習のネットワークというものを作っていくことができれば、さらなる効果が期待できると思われる。

<自然会話の教材化>

本取組でのやり取りを文字化し、自然会話の教材として教材化すれば、日本語教員養成課程の学生にも、日本語学習者にも有効である。日本人学生にとっては、自分たちが学習者とやり取りした内容や説明の仕方などを振り返って学ぶのに有益である。また、日本語学習者は、母語話者は、自然なやり取りにおいては、どのような表現や言い方をしているのかということを学ぶためにも活用できるであろう。

<スカイプのやりとりの文字化>

スカイプの活用として、スカイプでの交流を録画して後から評価する際に使うという提案があったが、評価に使うと同時に、スカイプでのやり取りを録画したそのものを、文字化することも必要である。文字化資料を作成すれば、接触場面でどのようなやり取りが行われ、どのようなコミュニケーション・プレイクダウンが起こっているかということなどが観察でき、学習者が復習したり、母語話者の言い回しを学習することに利用でき、教材としての価値も高い。

3. 総括

京都外国語大学の教育GPで実践されているSNSのWEBダイアリーは、非常に先進的で有意義な試みであると評価できる。今後は、次に示すような方向性で、継続・発展させていく努力を継続していただきたい。

また、個々の大学と提携校の間で教育用として活用するだけでなく、今後は、個々の大学と提携校という枠を越えて、ネットワークのようなものを作っていく必要がある。現状で関係している大学から始めるのが適当かもしれないが、まずネットワークの拠点をいくつか作る努力を行い、それぞれの拠点校が、それぞれの協定校と交流していけるというような拡充をおこなうことが望ましい。日本語教員養成に関しては、機関によって、経済的、その他、様々な理由により、学生・実習生が減少しているという現状報告もあったが、そのような傾向をカバーすべく、日本国内での連携と複数のネットワークの拠点を確立していく努力が必要であろう。

機会があれば、東京外国語大学もなんらかの形で、協力していきたい。さらには、今回のフォーラムの関係の機関の方々、それから参加者のみなさんの機関でも、互いに情報交換しながら、このような試みを盛り上げていく必要がある。